

脳神経外科

【当院脳神経外科研修の目標と特色】

- 脳神経外科専門医取得までに common な脳神経外科疾患について外科的治療医として自立して診療できることを目標とする
- 脳神経外科専門医取得と平行して、希望により脳血管内治療専門医についても取得できるコースあり
- 総手術数はセンター施設に比べ少ないが医師一人当たりの担当症例は多く、また、2大疾患である腫瘍、血管障害につきバランスよく経験できる

【当院脳神経外科の理念と特色】

- 地域に密着したかたちで脳血管障害、脳腫瘍など脳神経外科疾患を包括的に診る
- 治療の中核である手術については従来の開頭マイクロ手術に加え脳血管内手術、定位的手術など低侵襲手術を取り入れ良い結果を得ている
- 手術を含めた急性期治療後の退院に向けた枠組みづくりにも関わる
- このことにより患者に良い結果をもたらすための decision making へのフィードバックが得られる

【脳神経外科診療データ】

- 脳神経外科部長（責任者）：松本圭吾
- 脳神経外科専門医：3名
- 脳血管内治療専門医・指導医：1名
- 入院患者数：322例（2008年度）
- 手術総数 136例（開頭術、穿頭術 102例 血管内手術 34例（2008年度）
 - ①脳腫瘍摘出術 18例：開頭腫瘍摘出術 13例、経蝶形骨洞手術 4例、定位的生検（部分摘出）術 1例
 - ②脳動脈瘤手術 28例：脳動脈瘤直達術 17例、脳動脈瘤コイル塞栓術 11例
 - ③脳血管血行再建術 32例：頸動脈内膜剥離術 12例、EC-IC バイパス術 2例、経皮的血管拡張術—ステント留置術 18例
 - ⑤高血圧性脳内出血に対する血腫摘出術 6例
 - ⑥水頭症に対する脳室—腹腔シャント術 10例
 - ⑦慢性硬膜下血腫に対する頭蓋穿頭洗浄術 24例
 - ⑧パーキンソン病に対する深部電極埋め込み術 1例
 - ⑨その他 17例
- 急性期脳卒中患者：153例（2008年度）
脳梗塞：76例、脳出血：46例、くも膜下出血：18例 t-PA 実施症例：9例

【脳神経外科研修プログラム】（1-2年は初期研修）

- 3年次 救急・病棟処置、脳神経外科疾患の診断、脳血管撮影・脳血管内手術の助手、
穿頭術・開頭閉頭術の実施
- 4年次 脳血管撮影の術者、脳血管内手術の助手、脳室-腹腔シャント術、外傷・脳内血腫の術者、
マイクロサージェリーの助手
- 5年次 上記に加え顕微鏡下バイパスの練習
- 6年次 脳神経外科手術一般、マイクロサージェリー、および脳血管内手術の継続（症例により術者）
- 7年次 脳神経外科手術一般、マイクロサージェリー、および脳血管内手術の継続（症例により術者）、
脳腫瘍の病理

*脳外科専攻医として4年間の研修後（7年次）に脳神経外科学会専門医受験資格が得られる

*上記プログラムは目安であり研修・専攻医師の到達度、指向により変更あり

*当院でカバーできない疾患（脊椎外科、新生児疾患など）については他施設での研修を配慮する

【施設認定】

日本脳神経外科学科専門医訓練施設（A項施設）

日本脳卒中学会認定研修教育病院

日本脳神経血管内治療学会研修施設

【定期カンファレンス】

脳神経外科術前検討会：週1回

脳神経外科・神経内科合同カンファレンス：週1回

脳神経外科・リハビリテーションカンファレンス：週1回

北神ストロークカンファレンス：年2-3回

京都神経外科クラブ：年4回

その他 近隣の脳神経外科施設との症例検討会あり

【学会】

脳神経外科、脳血管内治療、脳卒中関連の学会には地方会、総会を含めて積極的に参加、発表する。